

本庄市塙保己一記念館にある資料紹介

和学講談所の天満宮軒丸瓦と額

記念館には天満宮と陽刻された軒丸瓦が一点展示してあります。よく見ると「和学所・天満宮」とあります。この瓦は和学講談所の一角に勸請かんじょうした天満宮の屋根瓦の一部なのです。

保己一が天満宮を深く信仰したことはよく知られています。明和三年（一七六六）

に父と一緒に伊勢参宮を行った時、足をのばし北野天満宮に参詣したといい、勾当こうどうの位に昇進した時も、勾当になれるように事前に江戸の平河天神に祈願していました。昇進も叶い、さらに検校昇進の祈願も考えたといわれます。この平河天神（天満宮）へは毎日お参りを欠かさず、その信仰心の深さがうかがわれ、保己一が和学



講談所をつくった際には天満宮を敷地内に建立したのです。保己一の伝記の一つ『御伝』（記念館所蔵）には、「麴町平川町なる天満宮を尊敬し、ていぢやう第中に勸請して毎年二月廿五日是を祭れり」と書かれています。なお、記念館にはこの瓦以外にも、天満宮の額が一枚残されており、共に貴重な遺品の一つとなっています。

今年度も塙先生顕彰会の会員として継続してご協力いただけますようお願い申し上げます。

総検校塙保己一先生遺徳顕彰会では、塙保己一先生の遺徳を顕彰し、幅広い啓発活動を行っています。会員のみなさまの日頃のご協力に感謝申し上げます。

塙先生顕彰推進のため今年度も会費の納入につきまして、よろしく願いいたします。

みなさまのご協力をなにとぞよろしくお願いいたします。

年会費 個人会員 一口 千円、賛助会員（団体） 一口 一万円

入会と会費納入の受付場所 本庄市役所 4階生涯学習課と本庄市児玉文化会館（セルディ）、アスパアこだま内の児玉公民館で受け付けています。

※ 郵便振替でもお申込みいただけます（ご希望の際には、下記へご連絡ください）。



発行 総検校塙保己一先生遺徳顕彰会

事務局 本庄市教育委員会 生涯学習課 本庄市児玉文化会館（セルディ）内

所在地 367-0216 埼玉県本庄市児玉町金屋728-2

電話 0495-72-8851 FAX 0495-72-8854

※点訳ボランティアグループ「ほきの六点会」の皆様により会報誌の点字翻訳版を作成していただきました。ご希望の方は、事務局までご連絡ください。



3月12日、銅像の除幕式が多数の来賓ご臨席のもと行われました。

＝塙先生の銅像がついに建立となりました＝

総検校塙保己一先生遺徳顕彰会では、皆様のご支援とご協力によりまして、塙保己一先生没後195周年及び本庄市合併10周年を記念して、このたび総検校塙保己一先生の銅像を建立することができました。ここに、深く感謝申し上げます。

この銅像は、塙保己一先生の業績を讃えるとともに、本庄市の玄関口の一つであるJR上越新幹線本庄早稲田駅の前にたたずむこの像により、本庄市を訪れた人や、本庄から旅立つ若い人たちなど、多くの人々が夢と希望を抱いていただけるよう祈念して建立したものです。

総検校塙保己一先生遺徳顕彰会では、この銅像建立を大きな契機として捉え、塙保己一先生の遺徳と業績の顕彰、その精神を国内外に広く伝えて参りたいと考えておりますので、引き続き、皆様のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

総検校塙保己一先生遺徳顕彰会

会長 吉田 信 解

平成28年度 顕彰会 総会 を開催いたします。

郷土の偉人 塙保己一先生の偉大な業績を顕彰する総検校塙保己一先生遺徳顕彰会も会員のみなさまのおかげにより発足から10年目を迎えます。今年度の総会を下記のとおり開催しますので多数のみなさまのご参加をお待ちしております。申込み不要です。



昨年
の
総
会
の
様
子

日 時 5月21日(土)午後1時30分～受付
午後2時 開 式

会 場 セルディ ホール

内 容 前年度事業報告・決算報告
今年度事業計画・予算審議

記念講演 国文学研究資料館研究部教授
伊藤 鉄也 氏

演 題 世界中だれでも読める『群書類従』

平成27年度 顕彰会 事業報告

平成27年度の顕彰会における特筆すべき事業は、塙先生没後195年周年・本庄市合併10周年を記念して建立された塙先生の銅像です。平成19年の顕彰会発足当初より塙先生顕彰のシンボルとなる特別事業を検討し、長らく銅像建立委員会ほか多くの関係者の方々により協議・研究を重ねていただき、今年3月12日(土)、上越新幹線本庄早稲田駅北口にめでたく完成いたしました。会員のみなさま、ぜひご覧ください。

さらに、今年度は、下記の定例事業を実施したほか、自治会や高校で塙先生の偉業についての説明などを行いました。



顕彰会総会 5月19日(土)

平成27年度総会では、会の運営や銅像建立について審議・承認が行われました。また、寄附者への感謝状贈呈のほか、温故学会齊藤理事長による講演も行われました。



顕 彰 祭 9月12日(水)

塙先生の命日に遺徳を偲び、セルディにて来場者全員による菊の花の献花が行われました。



塙保己一賞 12月15日(土)

障害がありながら社会的に顕著な活動をしている人や応援している人・団体を表彰する塙保己一賞への協力を行いました。

3名が表彰を受けました



塙保己一先生はどんな人物か——(2)

文・顕彰会事業委員 野口 茂

前号に引き続き、今回も塙保己一先生の生涯及び業績について順序立てて述べたいと思います。

八、大日本史を校正し、座中取締役にも就任

四十歳の時、立原翠軒の推薦によつて水戸藩主 徳川治紀公にお目通りを許され「源平盛衰記」の校正にあづかります。

四十四歳の時、正式に水戸藩の「大日本史」の校正に携わり月俸十人分（持）となります。

四十六歳の時、新しく設けられた盲人仲間の座中取締役に任命され座中法の改正の断行を行つて実績を上げ、幕府や周囲からその実力を高く評価されます。

九、和学講談所設立を願ひ出る

四十八歳の時、国学の研究拠点の必要性を強く感じていた保己一は、幕府に願ひ出て和学講談所用に建設用地三百坪、資金三百五十

両の借用も叶い、その年のうちに着工、同年十一月に完成し会読を始めます。いかに幕府の保己一への信頼が厚く、周囲の人間が支援しているかが伺えました。

五十歳の時に和学講談所の永続手当として毎年五十両を支給されます。そしてすでに刊行された群書類従を幕府に献上し、その褒美として白銀十枚を受けました。

十、徳川家等からの厚い信頼

五十三歳の時、群書類従の版木倉庫建設用地の借用願や國史・律令の刊行の資金借用願等で尾張の徳川家への出入りも許可されます。そして、用地の借用と資金の五百両も願ひどおり許可されます。

五十四歳の時、座中取締役を辞任し褒美として白銀二十枚を受け、また、紀伊徳川家への出入りも許可されます。

その後七十六歳に総検校になるまでの二十年間はほとんど幕府や皇族等の公的な史実や文庫等の刊行のための仕事に、江戸將軍屋敷や京都の皇居の往復に時間を費や

し、忙しい国家的な大事業に没頭した人生でした。

・塙保己一の行ったこと

この後は、次号にもわたり塙先生が遺した業績を記していきます。

その一、和学講談所を設立

四十八歳の時、それまでになかった我が国の歴史や法律、文化等専門の教育機関の設立に向けて動き出します。設立の決断をしてからはすぐに幕府に国学専門の学校を作ることを申し出ました。許可が出て建設が開始されたところ、老中 松平定信公も大いに喜び、この建物に「温故堂」という名称を付け、題額に自ら執筆するほどでした。この講談所は、その年の十一月に完成し、林大学頭の支配下におかれ、保己一が学長になりました。その後、幕府から年五十両が支給される公的な機関としての扱いとなり、保己一は全体を取りまとめ思う存分に采配をふるうこととなりました。和学講談所の役割は、

- ① 国の最高の研究調査機関
- ② 行政機関として文書の起草、検閲や幕府からの調査の回答

③ 出版局としての「群書類従」の刊行事業

などであり、今でもその業務の一部は東京大学の史料編纂所に受け継がれています。

次回は、おもに群書類従についてご説明します。



和学講談所復元模型 1/50 (塙保己一記念館)